

# 平成採用者交流会開催

## 国労ちば

国鉄労働組合  
千葉地方本部  
発責 加藤 晃一  
編集 高橋 弘幸  
【電話】  
JR 2930 FAX 2934  
NTT 043 (238) 5963  
FAX 043 (238) 5967

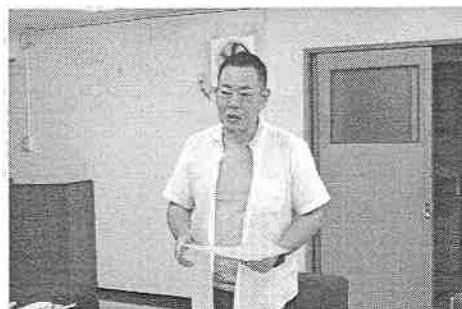
その悩み  
相談してね  
国労に

### 国労の闘う運動を継承するために

7月6日、地本において「平成採用者交流会」を開催した。

松田副委員長の司会に始まり、委員長の地本情勢報告を含めたあいさつ、千葉地本の組合員でもある木村中央本部副委員長より本部情勢を含めたあいさつを受けた。

【委員長あいさつ】  
2年かけて財政的な問題などを乗り越えて分会再編の議論を進め7分会に統合した。要求を勝ち取ることが簡単ではないが、職



若年層を中心に離職者が増加している。精神的に悩み苦しんでいる労働者は少なくない。だからこそ、労働組合が必要なことを訴えるのが重要。社友会を会社主導で設立し、組合

組合は誰のためにある？

不要論を展開している。

会社都合の悪い社員代表を選出、36協定のスムーズな締結が目的だが社友会は労働者の基本的な権利である団体交渉ができず、組合の替わりにはなり得ない。

社員の意見や要望を聞くためとして団体交渉前に会社施策をタブレット配信している。組合軽視と言わざるを得ない。

#### 地方ローカル線問題

「JR久留里線沿線地域交通検討会議」が発足。利用者の少ない線区は鉄道の大量輸送という特性を活かして通学や通院など交通弱者の需要がある。

今の経営陣には「国鉄改革」の精神は見受けられず、公共交通としての責任と使命が欠



如している  
人員不足は会社としても問題と捉えているが新規採用者が減少し、離職者に歯止めがかからない。魅力のある会社でなければ人は来ない。

今後の5年を見据えて

全国大会は5年ビジョン総括の重要な大会になる。9月開催の地方大会に向けて議論を進めたい。

情報発信アプリ「UNAG」の登録が伸び悩んでいる。ホームページと合わせて組織拡大に繋げたい。

参加者発言

【千葉設備分会】  
エルダー出向となり、夜勤だけでよかったのに、日勤・夜勤とフルタイムで働かなくてはならない。

若い飯田君を一人にさせないようにするのが重要。

【津田沼分会】

非番者集会の参加者が少なくなりほぼ同じメンバーでの議論となっている。若い社員と話す機会が少ない。労働組合の必要性を感じているのが重要。

労働条件が悪くなっているのは組合が弱くなっているからだ。

【警備会社出向組合員】  
エルダー出向となり、東京都内の警備を希望したが千葉に配属させられた。現在も新宿駅分会に所属しているが現職社員がいなくなってしまう。組織拡大は重要な課題だ。

#### 討議を終えて

議論と報告を終え、北嶋書記長の集約で一旦の締めとした。当初予定していた平成採用者の参加は都合がつかず、欠席となったのは残念であったが今後議論と交流の場を持つことは大事なことであり継続したい。

その後場所を移し、楽しい交流会となった。

#### 合団燈

今年度で入社11年目になる。入社当初は東

労組にいたが3年ほど経ったころに国労に入った。▼現場の実態としてJR東日本全体で待避誤り事象が多発している。特に7月には4件の待避誤り事象が発生している。そのうち直轄社員が起した2件の待避遅延はどちらも現場設備に気を取られて待避遅延を起した事象だ。私の実感として1人に対する仕事量が多すぎて余裕がなくなり、命に係わる事象に繋がっている。過去には病んでしまった人、若くして転職してしまったりもいる。今のJRは労働者にとって非常に厳しく魅力のない会社になっている。このような状況を変えていく為にも組合が一致団結し、団交を通じて会社に要求し現状を変えていく必要がある。

▼国労は若い組合員が少ないが、声を上げ人の命を守らなければいけないと私は思う。国労は団結して頑張っていく！

(秀)

# 第33回東日本電気協議会 職場交流会

7月7日新潟県の越後湯沢において東日本電協職場交流会が開催された。

今回の参加者は、役員を含め31名。全体集會は、井上副議長の司會で開會。東日本本部中谷執行委員より「内房線感電事故」「東海道線電化柱傾き」「大崎駅での電子連動故障」「尾久駅構内ケーブル火災」に対する申し入れを行ってきた。また、3月29日に起きた新幹線での架線垂下事故による二次災害で感電事故も起きている。この事故について申し入れを行い団体交渉を

行ってきた。

組織問題について5年ビジョンが全国大会で総括される。本部から提起のあった「TUNAG」アプリを登録してほしいとあいさつ。後藤議長から交流会の「意義と課題」について提起され、ほとんどの組合員がエルダー出向になってきている状況であるが、現職の組合員も頑張っているのでも我々も頑張りたい。本部からのあいさつにもあったが昨年から今年にかけて電気関係の事故が多発している。これまでもヒューマンエラーによる事故は起

ているので事故を起こさないシステムが必要。また、検査周期の見直し検査の簡略化も事故の原因ではないか。

JR職場では、支社の業務を設備技セで行うようになり業務量が増えている。交流会では、分科会を中心に開催してきたが、今交流会は、人数も少なくなつた事もあり「直轄」、「テムズ」、「テムズ」以外の電気会社、「警備会社等」に分けて分科会を行ってほしい。系統を問わず意見を出し今後繋げる議論をお願いしたいと提起があった。

## 分散会報告

「直轄」

新幹線では、総合技術者が育っていない。フレックス勤務により出退勤がはっきりしないため超勤が増えている。

「テムズ」

内部書類が多く手間がかかり昼夜作業を行っている。プロパーは夜勤明けでも残って業務をこなしている。

「テムズ以外」

エルダー出向者の職場は仮眠室も少なく疲れが取れない。競合調整は、エルダー出向社員が多く出席している。

「警備その他」

超勤ありきの勤務のため高齢者給付金の支給額に影響が出ている。

## 議長集約

改善するところが多く問題意識を共有していきたい。今後の交流会あり方については、資金もあるので役員会の中で議論して決めていきたい。

最後に「団結ガンバロー」で交流会を閉会した。

## 真夏のタブレット騒動

各手当の支給確認は郵送だったのが今年はタブレットを使用しての報告となった。

エルダー出向の社員にもJRからタブレットを支給されているが、使用する機会は無く箱や自宅の机の引き出しに大事にしまい込んである方も多かったのではなかろうか。

起動出来ても定期的なパスワード更新がされておらずメールが使



用できないのはまだましな方。起動すらできず、システム会社の世話になった方も多数いたようだ。

今後も何かの申請ごとに使用させるつもりなのかは分からないが、支給されてから数年間、使用しなくても困る事は無かった。果たして費用対効果はどうなの

なら返したいというのが本音のタブレット。今回初めて申請に使用する事を求められたため、あちこちで混乱が起きた。個々に対応するシステム会社の担当者も心の中では「またか」と思っていたのではないだろうか。

必要とされていない物を支給するのは無駄遣いであり、足元から見つめ直すべきだ。使用できるようにしたタブレットを開くと山のように届く関係のないメールにため息が出る。

利用するには経費節減のためとして、みどりの窓口を次々と閉鎖し、旅客用トイレや駅構内の時計を撤去し自動改札機を一部停止するなど利用者に負担を強いている。

## 2024千葉県団結まつり

2024年10月13日(日) 11時30分～  
京成労働会館3階ホール(受付 11時～)



共闘の仲間とともに連帯の輪を広げよう!  
大抽選会あり!

## 第78回定期地方大会

日時：2024年9月7日(土)

10時30分～

受付：10時～

場所：千葉地方本部

会議室

